

# 『もしもし検定』VIデザインガイド



# はじめに

『もしもし検定』（電話応対技能検定）をビジネスに有用な資格として認知してもらい、広く社会に普及させていくこと、すなわち本検定の「ブランドイメージ」を確立することを目的に、シンボルマークおよびロゴタイプを制定しました。

このシンボルマークとロゴタイプは、視覚的効果によって検定の趣旨への理解を促すことはもちろん、いかなる媒体においても統一したイメージを発信することで、ヴィジュアル・アイデンティティとしての役割を果たします。

本デザインガイドでは、『もしもし検定』（電話応対技能検定）のPRツールをはじめ、人々の目に触れるさまざまなアイテムが整合性のある仕上がりとなるよう、これらの制作におけるデザインルールを定めています。

本検定の関連アイテムを作製する際には、デザイン上の判断基準としてこのガイドをご活用ください。

## ■ CONTENTS

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. 基本デザイン要素.....      | 02    |
| 2. カラーシステム .....      | 03    |
| 3. アイソレーション.....      | 04    |
| 4. シグネイチャー .....      | 05    |
| 5. 具体的展開例 .....       | 06    |
| 【名刺】 .....            | 06    |
| 【封筒】 .....            | 07～08 |
| 【参考：委員会が発行する印刷物】..... | 09    |
| 6. 使用禁止例 .....        | 10    |

# 1. 基本デザイン要素

## ■『もしもし検定』シンボルマーク

本検定の愛称である『もしもし検定』のシンボルマークは、「もしもし」のMと、受話器のシルエットとで象ったハートの中に、柔らかなフォールのロゴタイプを組み込み、「心のこもった」「心が通い合う」電話応対を表現しています。

＜検定シンボルマーク A(最小使用サイズ 左右22mm)＞

※シンボルマークAは、ロゴタイプと併用せず単独でのみ使用します。



＜検定シンボルマーク B(最小使用サイズ 左右7mm)＞



## ■『電話応対技能検定』ロゴタイプ

本検定の正式名称である『電話応対技能検定』のロゴタイプは、『もしもし検定』との同一性を印象づける『M+受話器』のハートをアクセントとし、親しみやすさと気高さを併せ持つロゴタイプとしています。

＜正式名称ロゴタイプ(最小使用サイズ 左右16mm)＞



## 2. カラーシステム

### ■カラー表示

『もしもし検定』シンボルマークおよび『電話応対技能検定』ロゴタイプのイメージカラーは、ブラックとオレンジレッドの2色です。ブラックは「揺るぎない信頼」を、オレンジレッドは「心のあたたかさ」を意味します。



ブラック

●プロセス BK100%

オレンジレッド

●DIC 160  
●PANTONE 021C  
●プロセス M80% + Y100%

### ■モノクロ表示

『もしもし検定』シンボルマークおよび『電話応対技能検定』ロゴタイプをモノクロで使用する場合はブラックの1トーン、あるいはカラー表示におけるオレンジレッド部分をグレー（ブラック50%のアミ）にした2トーンで表示します。



ブラック

●プロセス BK100%

グレー

●プロセス BK50%

### ■白ヌキ表示

『もしもし検定』シンボルマークおよび『電話応対技能検定』ロゴタイプは、イメージカラーであるブラックとオレンジレッド、またはこれらと同等の濃い背景色に配する場合のみ、白ヌキで表示することができます。



ブラック

●プロセス BK100%



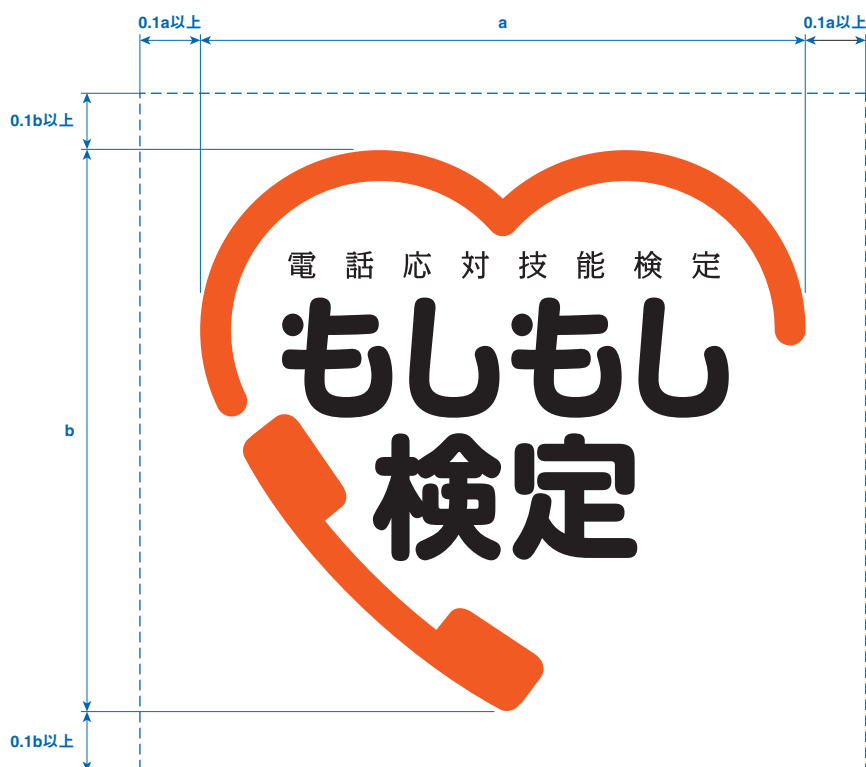
オレンジレッド

●DIC 160  
●PANTONE 021C  
●プロセス M80% + Y100%

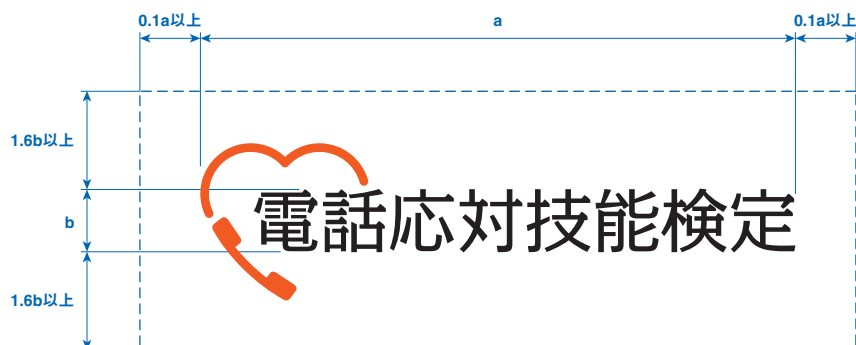
### 3. アイソレーション

アイソレーションとは、シンボルマークやロゴタイプの象徴性を高めるための『孤立化』のことです。シンボルマークおよびロゴタイプは、その使用サイズの大小にかかわらず、同一画面上の他の要素との間に一定の余白を設けなければなりません。

#### ■『もしもし検定』シンボルマーク(AおよびB)のアイソレーション



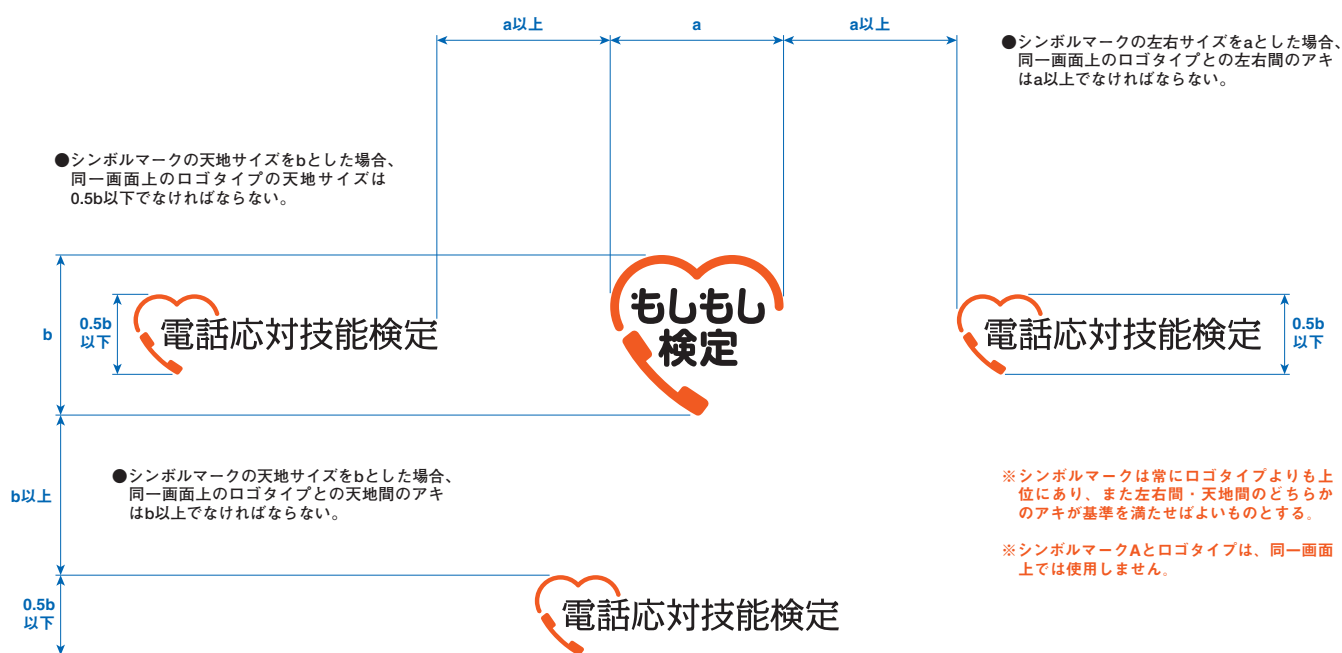
#### ■『電話応対技能検定』ロゴタイプのアイソレーション



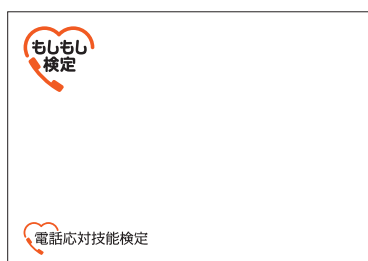
## 4. シグネイチャー

シグネイチャーとは、本検定の発信情報であることを示す「サイン」としての、統一された表示スタイルのことです。以下に、シンボルマークBとロゴタイプを同一画面上で使用する場合の基準を定めます。双方の距離と表示サイズの比率を遵守してください。

### ■シンボルマーク B と ロゴタイプ を同一画面上で使用する場合の表示基準



#### 〈表示の例〉



## 【名刺】

## ●本検定の委員会・事務局、および実施機関所属者の名刺

電話応対技能検定委員会・事務局、および実施機関に所属する方（本検定の有資格者でない）の名刺には、左右サイズ9mmのシンボルマークBのみを記載します。推奨する記載位置は氏名表記の後ろですが、既製の名刺デザインにおいてこれが困難な場合、P04のアイソレーションを参考に適宜バランスのよい位置に配してください。

<電話応対技能検定委員会・事務局に所属する方の場合>



<電話応対技能検定実施機関に所属する方の場合>



## ●本検定の資格取得者の名刺

指導者級を取得して本検定の実施機関における指導者となられた方、および1級～3級を取得した方の名刺には、左右サイズ9mmのシンボルマークBに加え、氏名表記の下に等級と認定番号（モリサワfont 太ゴB101：5pt）を記載します。シンボルマークは推奨する記載位置に配するのが困難な場合、P04のアイソレーションを参考に適宜バランスのよい位置に配してください。

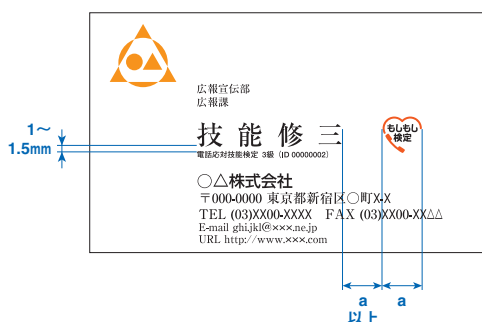
<指導者級を取得し、「もしもし検定指導員・試験官」となられた方の場合>



<指導者級を取得し、所属する実施機関が一般企業様の場合>



<1級～3級を取得された有資格者の場合>

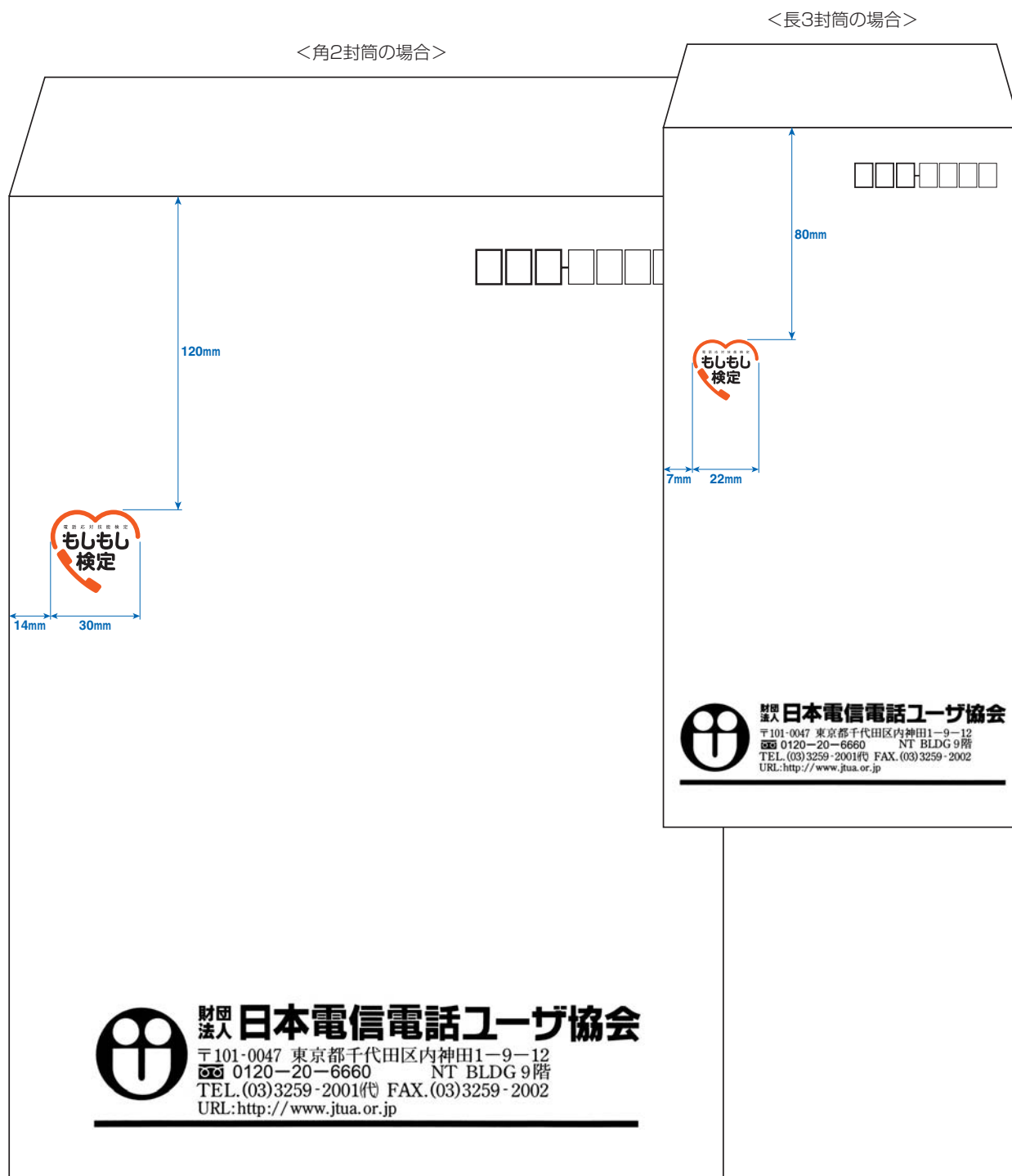


※本検定の資格取得者の方は、シンボルマークとともに必ず等級と認定番号を記載してください。

## 【封筒】

## ●ユーザ協会（本検定の委員会・事務局および実施機関）の封筒

ユーザ協会（本検定の委員会・事務局および実施機関）の封筒には、シンボルマークAを下記の要領で表記します。



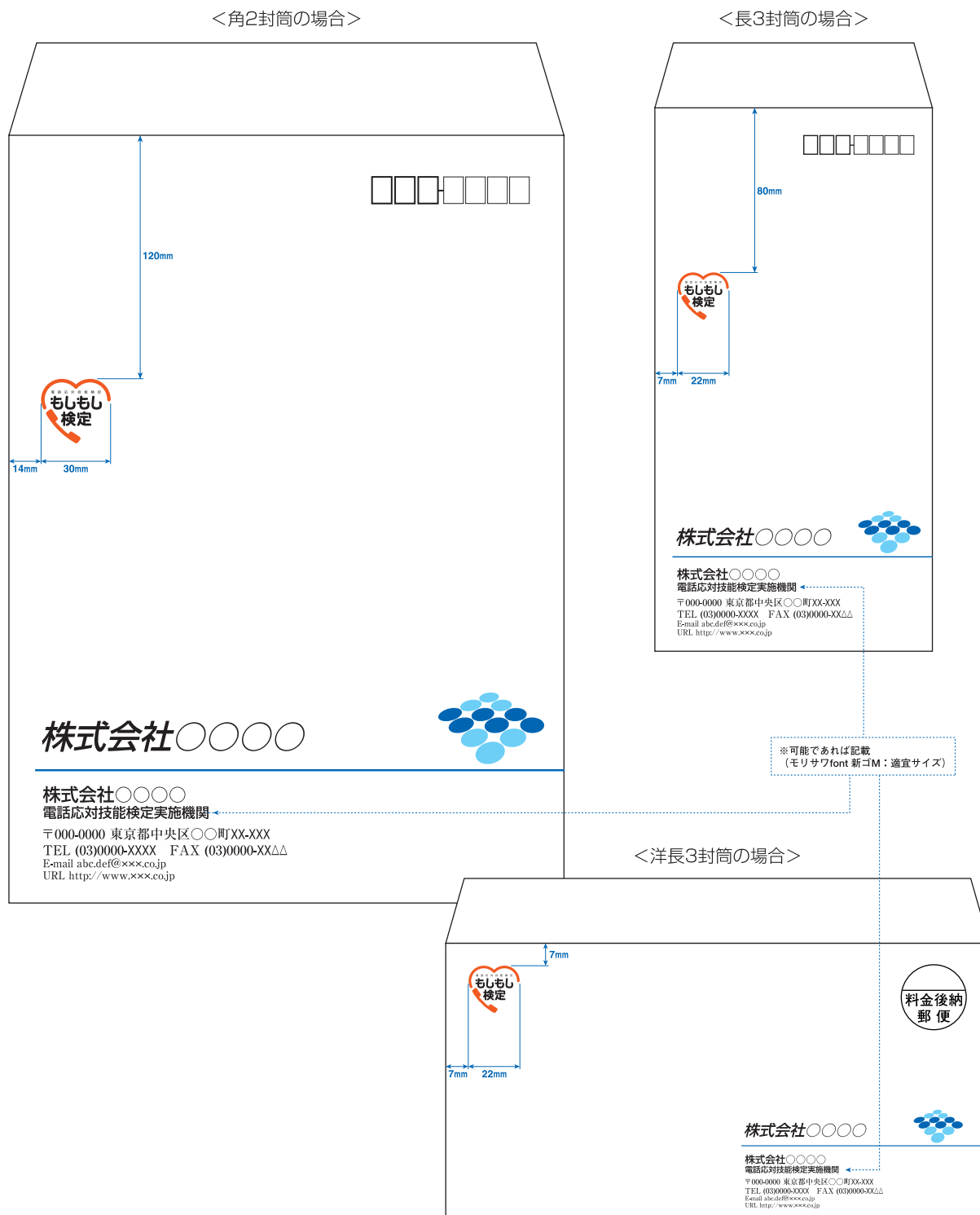


## 【封筒】

## ●一般企業様（本検定の実施機関）の封筒

一般企業様（本検定の実施機関）の封筒についても、シンボルマークAを下記の要領で表記します。

また、可能であれば企業名の下に「電話対応技能検定実行機関」（モリサワfont 新ゴM：適宜サイズ）と記載してください。



## 【参考：委員会が発行する印刷物】

以下は、電話応対技能検定委員会が発行する印刷物です。展開例の参考としてください。



<電話応対技能検定 認定カード>

<電話応対技能検定 認定証>

## 6. 使用禁止例

### ●基本デザイン要素について



変倍をかけてはならない。



文字の書体を変えてはならない。



構成要素の一部を単独で使用してはならない。



構成要素の大きさを変えてはならない。



構成要素を移動してはならない。



シンボルマークAの構成要素を削除してシンボルマークBにしてはならない。

### ●カラーシステムについて



イメージカラーの配色を変えたり、イメージカラー以外の色を使用してはならない。



オレンジレッドで単色表示をしてはならない。



フチ取りをしてはならない。



視認性が損なわれる背景色を使用してはならない。



淡い背景色に白ヌキ表示をしてはならない。



白ヌキにイメージカラーやアミ掛けを併用してはならない。

### ●アイソレーションやシグネイチャーについて



協会シンボルマークなど他のロゴを至近距離に配してはならない。



背景にインパクトの強い図形やパターンを使用してはならない。



写真など判別しづらい画像を背景に使用してはならない。

## あ と が き

情報通信技術の急速な発展による、インターネットやメールといった手軽な情報伝達手段は、わたしたちのビジネスシーンに大きな変革をもたらしました。しかしその一方で、『話す』という最も基本的なコミュニケーション、とりわけビジネスシーンにおける電話対応のクオリティは、やや低下傾向であるように感じられます。

私個人としても、ユーザ協会様が毎年実施されている『電話対応コンクール』の、「正しく美しい日本語を守り伝える～」というスローガンに共感しており、同じ目的のもとに誕生した『もしもし検定』のVI制作に、微力ながら携われたことはとても光栄に思っております。

シンボルマークのデザインにあたっては、本検定の趣旨が一見して理解できるとともに、『話す』ことで生まれる安心感やあたたかさをイメージしていただけるよう、またすでに導入され浸透している協会のCIを崩すことのないよう心がけました。

この先、どれほどコミュニケーション手段が多様化しても、「言葉を交わすこと」の大切さを忘れない社会でありつづけるために、『もしもし検定』が広く社会に普及していくことを願ってやみません。

デザイナー 中村 桂三

『もしもし検定』VIデザインガイド 平成20年5月 第1版

●企画・編集

財団法人 日本電信電話ユーザ協会電話対応技能検定委員会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-12 NT BLDG 9階

☎0120-20-6660 TEL (03) 3259-2001 FAX (03) 3259-2002 E-mail [rieko.y@mbc.sphere.ne.jp](mailto:rieko.y@mbc.sphere.ne.jp) URL <http://www.jtua.or.jp>